

平成25年度1月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 平成26年1月7日（火）午後1時30分～午後2時

場所 市役所2階第4委員会室

会見内容

1. 話題提供（3項目）

1. 外国人傷病者等への対応について

- 現在、釧路市では、台湾との国際定期便の就航や外国船籍のクルーズ船の寄港などにより、外国人観光客が増加しています。平成24年度における外国人観光客のうち、宿泊客数は延べ63,396人でした。そのうち、第1位は台湾で全体の約6割を占める37,928人となっています。
- このような状況の中、一昨年11月23日には釧路管内で台湾政府文化部の張璿（チョウ・ロウ）さんをはじめ3名の方々が交通事故により亡くられるという非常に痛ましい事故がありました。諸外国との交流推進を積極的に進めている釧路市としては、この交通死亡事故は痛恨の極みであり大変重く受け止めました。
- 事故後直ちに、繁体字・簡体字・ハングル・英語の4か国語の「冬のドライブの心得」（北海道作成）のパンフレットをホテルやレンタカー会社等に配布した他、市ホームページの多言語のページに掲載しました。あわせて釧路警察署とも連携しながら、こうした事故が発生した場合の対応について、庁内関係課の連携の仕組みを構築いたしました。
- また、釧路警察署では昨年11月に、釧路地区レンタカー協会の会員とともに外国人観光客に冬道の注意を呼びかけるチラシを釧路空港で配布するなどの取り組みを行った他、釧路地区レンタカー協会と釧路建設業協会がタイアップし、レンタカーを利用する外国人に対し、外国人ドライバーである旨のプレートを用意し、まわりのドライバーに注意を促す取り組みを進めるなど、地域全体でさまざまな対応を図っています。
- 一方、ここ最近では、外国人観光客の増加や外国船籍の寄港などにより、傷病者への対応が増加してきており、病院等から通訳者の派遣等の要請を受けることが増えてきています。
- これまでは、市に通訳者の紹介があった場合、大使館や総領事館への助力要請をするように伝えるとともに、医療通訳以外の日常生活程度の通訳者については、紹

介の要請を受けた時点で、在住者などで当該外国語を通訳可能な者を探し、個別に対応してきました。

- 今後、さらに外国人の方に安心して釧路を訪れていただけるように、市役所関係各課、釧路市医師会、釧路市歯科医師会、釧路市薬剤師会、釧路観光コンベンション協会、阿寒観光協会まちづくり推進機構、船舶代理店である三ツ輪運輸(株)・北海運輸(株)釧路支店・日本通運(株)釧路支店、ベトナム・中国からの研修生を受け入れている釧路コールマイン(株)、釧路国際交流ボランティアの会と連携を図り、「釧路市外国人傷病者対応連絡協議会」を昨年12月27日に設立しました。
- 協議会では、これまで個別に対応してきた仕組みを関係機関で明確にし、「外国人に係る傷病者発生時の対応について」という文書を広く市内医療機関やホテルなどに周知していこうと考えています。今後とも、この協議会などで必要に応じて対応について検討しながら、外国人の方々にとっても、より安全で安心なまちを目指していきたいと考えています。

2. 阿寒湖氷上フェスティバルについて

- 「第36回阿寒湖氷上フェスティバル」
 - ・ 日 程 2月1日(土)から3月16日(日)までの44日間
 - ・ 主 催 NPO法人 阿寒観光協会まちづくり推進機構・釧路市
 - ・ 内 容 アイヌ舞踊を盛り込んだセレモニーと阿寒湖の氷上から打ち上げる「冬華美」をメインに、氷切り体験、氷上ゲーム、さまざまな雪像、すべり台等、観光客の皆様にも冬の楽しみと体験を存分に味わっていただくフェスティバル。
フェスティバルには全国、海外からのお客様がシーズンで5～6万人が訪れ、海外からは台湾、香港などのお客様も多数訪れ、冬の北海道を体験するメニューとして好評をいただいています。
特に今年は、個性的な空間を楽しんでいただくため、湖上に直径15mと10mの氷で出来た「アイスドーム」を建設し皆様をお迎えします。
「アイスドーム」は、阿寒湖のマリモをイメージして、グリーンのLED照明で、暗い湖上に浮かびあがるように建設される予定で、ドームの中では、ちょっとした休憩所として、温かい牛乳や甘酒、わかさぎの天ぷらなどの「お楽しみセット」(1セット300円)も賞味できます。
- ・ 問合せ 阿寒観光協会まちづくり推進機構 (Tel0154-67-3200)
- 「あいすランド阿寒」
 - ・ 日 程 1月から3月下旬まで開設

- ・内 容 阿寒湖の氷上で ワカサギ釣り、スノーモバイル、バナナボート、スケートが楽しめる体験フィールドとして 観光客の皆様に親しまれています。
- ・問合せ あいすランド阿寒 (TEL0154-67-2057)

3. くしろ冬まつりについて

- 昭和39年に1回目の氷まつりが開催され、今年でちょうど半世紀、50回目を迎えます。

平成23年度からは名称を「くしろ氷まつり」から「くしろ冬まつり」に変更し、釧路を代表する冬のイベントとなっています。

- また、国際定期便のトランスアジア（復興）航空の台北～釧路便が毎週金曜日就航しているので、昨年に引き続き、台湾人観光客に対して「くしろ冬まつり」の情報を発信し、より当地への観光客増へつながるよう取り組んでいます（昨年は28名の台湾人観光客が雪だるま作りに参加）。

- ・開催日 2月1日(土)・2日(日)
- ・会 場 観光国際交流センター前庭をメイン会場とし、連動した形でMOOのエプロンでは「氷の迷路」などを開催。観光国際交流センター内でも協賛イベントを実施。
- ・問合せ 「くしろ氷まつり会 (FMくしろ内 TEL0154-47-0808)
- ・内 容
 - ・2月1日(土)

「冰雪像引渡し式」、北海道新聞社主催の「花火大会」、また、新しい試みとして縦2.5m横4.2mの雪像を制作し、それに立体的な映像を投影する「プロジェクションマッピング」をコンテスト形式で開催。
 - ・2月2日(日)

釧路新聞社主催の「宝くじ付きもちまき大会」等を予定。
新規企画として2日間「くしろ炭焼き冬炉端コーナー」を会場内に設置し、地場産品も含めて魚や肉等を販売し、釧路の文化である炉端を楽しんでいただこうと考えています。

- 子どもたちに大人気の冰雪像やチューブスライダーは、今年も陸上自衛隊第27普通科連隊を始め6団体の皆さんが制作するとともに、観光国際交流センター内では、「消費者まつり」、「障がい者芸術作品展」、「くしろ水産食品まつり」、「フリーマーケット」などが行われる予定です。

2. 質疑要旨

(質問)

- ・ 釧路市外国人傷病者対応連絡協議会に至るまでの経緯を教えてください。また、海外観光のPRにもなると思いますが、今後、どのように活用していく予定なのかお聞かせください。

(市長)

- ・ 先程、お話ししました交通事故の後、台湾から来た妊婦の観光客の方が、釧路滞在中に、産気づいたことがありました。そのときに今後このようなことが起きたときのためにしっかり連絡体制を整えておかなければならないと感じました。また、大使館だけでなく、市の施設やホテルなどとも連携をとっていかなければならないと考え、この「釧路市外国人傷病者対応連絡協議会」を設立しました。

旅行会社、大使館はもちろん、宿泊施設、病院、関係団体や大学などでもすぐに対応できる体制になっております。

(質問)

- ・ 協議会を立ち上げたことが、釧路のアピール材料になっているとお考えですか。

(市長)

- ・ はい。大使館や旅行会社などにもお知らせしていますし、海外からきた観光客の方々が関係するところに、釧路では体制が整っているという周知はしています。

(質問)

- ・ 通訳者の確保の最後の受け皿として、市が行っているという考えでよろしいでしょうか。

(市長)

- ・ 最後の受け皿というより、システム化することによって、万が一の時に市に十分な知識があり、誰でも対応できればいいと思っています。

(質問)

- ・ 全道的にみて、このような取り組みは初でしょうか。

(交流推進主幹)

- ・ 他に例はないと思います。

(質問)

- ・ 外国人のドライブ講習の日時などがわかれば教えてください。

(市民協働推進課長)

- ・ 確認して、改めて周知します。

(質問)

- ・ 道内初というのは、自治体が主導してこのような仕組みを構築したということが初ということでしょうか。

(市長)

- ・ 「外国人傷病者対応連絡協議会」設立が道内初です。

(交流推進主幹)

- ・ 道外には、同様の動きはありますが、道内では初めての取り組みです。

(質問)

- ・ 道外の状況がわかれば教えてください。

(交流推進主幹)

- ・ 京都、長崎、愛知の3カ所の先進事例があります。
県レベルで支援しつつ、NPOが実施しているところが多いです。

(質問)

- ・ 対応できる外国語はどのくらいあるのか教えてください。

(交流推進主幹)

- ・ 基本的には、大使館に連絡していただきたいとアナウンスしています。緊急性のある場合は、在住外国人を、釧路国際交流ボランティアの会に当たって、対応させていただこうかと思っております。
そちらで対応できる言語は、英語、中国語、ロシア語、韓国語、インドネシア語、マレー語、フィリピン語、タガログ語、ベトナム語です。

(質問)

- ・ 対応というのは医療通訳の人が対応するとうことでしょうか。

(交流推進主幹)

- ・ 医療通訳という資格は、まだ国内で確立されていませんので通常の通訳になります。

(質問)

- ・ 2月のベトナムの釧路フェアについて、わかっていることがあったら教えてください。

さい。

(市民協働推進課長)

- ・ 詳細を確認して、改めてご案内します。

(質問)

- ・ アイスドームですが、パンフレットに掲載されているものはオレンジ色ですが緑ではないのですか？

(市民協働推進課長)

- ・ (阿寒湖畔への) 建設は、これからします。今、試験的に北海学園大学でアイスドームの研究をしています。その際に作成したドームの画像をパンフレットに載せました。新たなマリモをイメージした緑色のアイスドームはこれからということになりますので、是非、現地で見ただけいただければと思います。

(質問)

- ・ 昨年末に国の予算の概要が出されました。釧路地域でいうと、港湾整備（バルク港）については、箇所付けはされましたが、新規着工については難しい状況となっています。この予算概要についての感想をお聞かせください。

(市長)

- ・ 平成 26 年度の予算の概要につきましては、ご案内の通りで、細かい配分は3月になる予定です。農業の方は、おかげさまで新規調査が認められました。バルク港整備については、新規着工に向けて、ぎりぎりまで働きかけを行っていきたいと思います。

トータルのには国際バルク戦略港湾は、国の戦略としてスタートし、市としても進めてきました。その中でも石炭、石膏石、穀物についてが重要視され、釧路の穀物が認められました。さまざまな状況がありますが、国策で進められてきたものですので、しっかりと前に進むものだと考えております。

整備が進んで、安価な穀物が釧路に入ってくるということは、地域の酪農業にとっても良い結果につながっていくと考えていますので、新規着工の箇所付けに向けて最後まで頑張っていきたいと思います。

(質問)

- ・ 3月に向けて、具体的な行動をどのように考えているのか、お聞かせください。

(市長)

- ・ 市、関係団体等との要請行動を行うことも必要だと考えています。